

地域を生きよう

第一回 地域適性化住宅研究会 in 出雲

《共催》町の工務店ネット・手の物語

日程：6月14日(水) 12:00～15日(木) 14:15

定員：80名(定員になり次第締め切らせていただきます。)

開催地：島根県出雲市

宿泊・セミナー会場：出雲・玉造温泉 ホテル「玉泉」

参加費：町の工務店ネット会員 及び
手の物語ユニティメンバー 32,000円(税別) / 人

それ以外の方 42,000円(税別) / 人

(宿泊費、会場費、交流会費、バス代、2日目朝・昼食代、資料代、講師料等を含む)

非営利一般社団法人 町の工務店ネット tel: 053-570-9001 / 手の物語有限公司 tel: 053-570-9012 〒432-8044 静岡県浜松市中区南浅田2丁目2-1

建物とまちを見学する

1 藤原木材産業の最新の仕事をみる

藤原木材産業と半田雅俊さんのコラボで造られたスタンダードな家。

今回のテーマの一つである「スタンダードハウス」の議論の種でもあります。

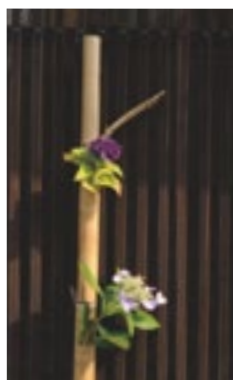
【案内人】(株)藤原木材産業 代表取締役/藤原 徹・建築家/半田雅俊



平田は木綿街道を代表する宿場でした。

2 雲州平田のまちをウォークする

江戸後期、木綿の集散地として栄えた雲州平田。「木綿街道」と呼ばれ、出雲格子が連なる建物を見て回る。バスの中から見る、出雲市街のシャッター街との対比を考えながら見て欲しい。築地の松も車中から見られます。



平田の水路

「最良の基礎とは、樹木の根のようなものである—つまり、樹木の全体構造はそのまま地中に連続し、引っ張りと圧縮を伴いながら、完全に地面と一体化したシステムを生み出している」

(『バタンランゲージ』C.アレグザンダー 著 白井翰那 訳 鹿島出版会 発行)

出雲市斐伊川の築地の松

3 永田昌民設計の出雲の家を見る

住宅は個人のもので、いくら名作でも、もう見られないだろうと諦めていました。施工された藤原さんに奔走いただき見学できることになりました。石州瓦の旧家と、永田さんの建物とが響きあって建っています。



出雲の家 内観



永田昌民氏が設計した出雲の家の模型



故 永田昌民氏 (2009年撮影)

建物見学の後は、 玉造温泉に移動して セミナー



今回の宿泊・セミナー会場「玉造温泉 ホテル玉泉」

※ご参加は、別紙申し込み書、または、手の物語webサイトよりお申込みください。

プログラム1 シャッター街の再生は、いかにしたら可能か？

再開発・駅前開発などによって、街が「香」を失い、シャッターが増えています。昔の町家では、店が閉じられたら「仕舞屋」と言って、家として再生されました。そんな知恵はもう期待できないのでしょうか。服部教授の『若者のためのまちづくり』(岩波ジュニア新書)を読んで目からウロコが落ちました。一步を踏み出すための知恵を学びます。



服部圭郎 (はっとり けいろう)
明治学院大学教授。主要研究テーマ：環境都市、縮小都市・地域、持続可能社会、都市政策、環境問題とライフスタイル、コミュニティデザイン



「若者のためのまちづくり」
岩波ジュニア新書



「人間都市クリチバ」
環境・交通・福祉・土地利用を統合したまちづくり
学芸出版社



倉敷市玉島通町商店街について、西山雅彦さんという方が、Facebookにてこんなことを書いています。「何度も通う。何度も何度も。現地の人と声を重ねる。状況は少しずつ変わってきてる。玉島はもともと輝けるはずなんだ。」

プログラム3 高断熱・高気密住宅の次のステージは？

北海道で高断熱・高気密住宅の道を開いてこられた武部さんと、注目される若き研究者齊藤さんを招き、荻原さんに解説してもらいながら、小池が司会します。過乾燥と蒸暑問題を、日本の南北で起こっている同根の問題とみなし、その「解」に臨みます。「閉じる技術」としての断熱・気密の内側を「入り子構造」として捉え、採暖・採涼・採冷／蓄熱・温放射、蓄冷・冷放射／調湿・蒸散／皮膚・着衣での放射・対流・伝導・蒸発等について、様々な角度から掘り下げ、次のステージへの指針となれば、と考えています。むずかしそうですが、これは各地の設計現場の具体、焦眉のテーマです。

講師



齊藤 雅也 (さいとう まさや)
1970年 三重県津市生まれ。札幌市立大学デザイン学部・大学院デザイン研究科・教授。専門分野は、建築環境学、建築環境デザイン、熱力学、住まい方研究、住環境教育(住育)。著書に「CLIMA DESIGN クリマデザイン 新しい環境文化のかたち」(共著)、「北の住まいの熱環境計画2015」(共著)



武部豊樹 (たけべ とよき)
武部建設株式会社 代表取締役
1950年 北海道三笠市生まれ。北海道開拓者の三代目。武部建設株式会社代表・北海道ビルダーズ協会代表理事。古民家再生から学んだ木造技術と高断熱高気密住宅で培った省エネ技術の融合、それを支える大工職人の育成に奮闘中。



荻原幸久 (えばら ゆきひさ)
手の物語有限公司・研究顧問。1950年東京生まれ。断熱材の用途開発を通じSHS工法を開発。その後太陽熱利用技術の研究開発を手がけ、シミュレーション開発に従事。理論と実践を得意とする。



司会
小池一三 (こいけ いちぞう)
町の工務店ネット代表。1946年京都市生まれ。パンプソーラーの普及に寄与。その功績により「愛・地球博」で「地球を愛する世界の100人」に選ばれる。手の物語有限公司・代表取締役。

プログラム2 2つの「小さな町角計画」を通して、スタンダードハウス(普通の家)を考える

所有から利用へ、リースホールド(定借)方式による最初の事例2つをご紹介します。それはタコツボ化した「注文住宅」とは異なる、新たな「普通」を予感させます。混乱する街並みと劃然と分ける「緑のアイランド=よく練られた町角」は、これから地域の工務店や設計者が進めるべき仕事です。さらには、そこから新たなスタンダードの可能性を読み取ることができます。

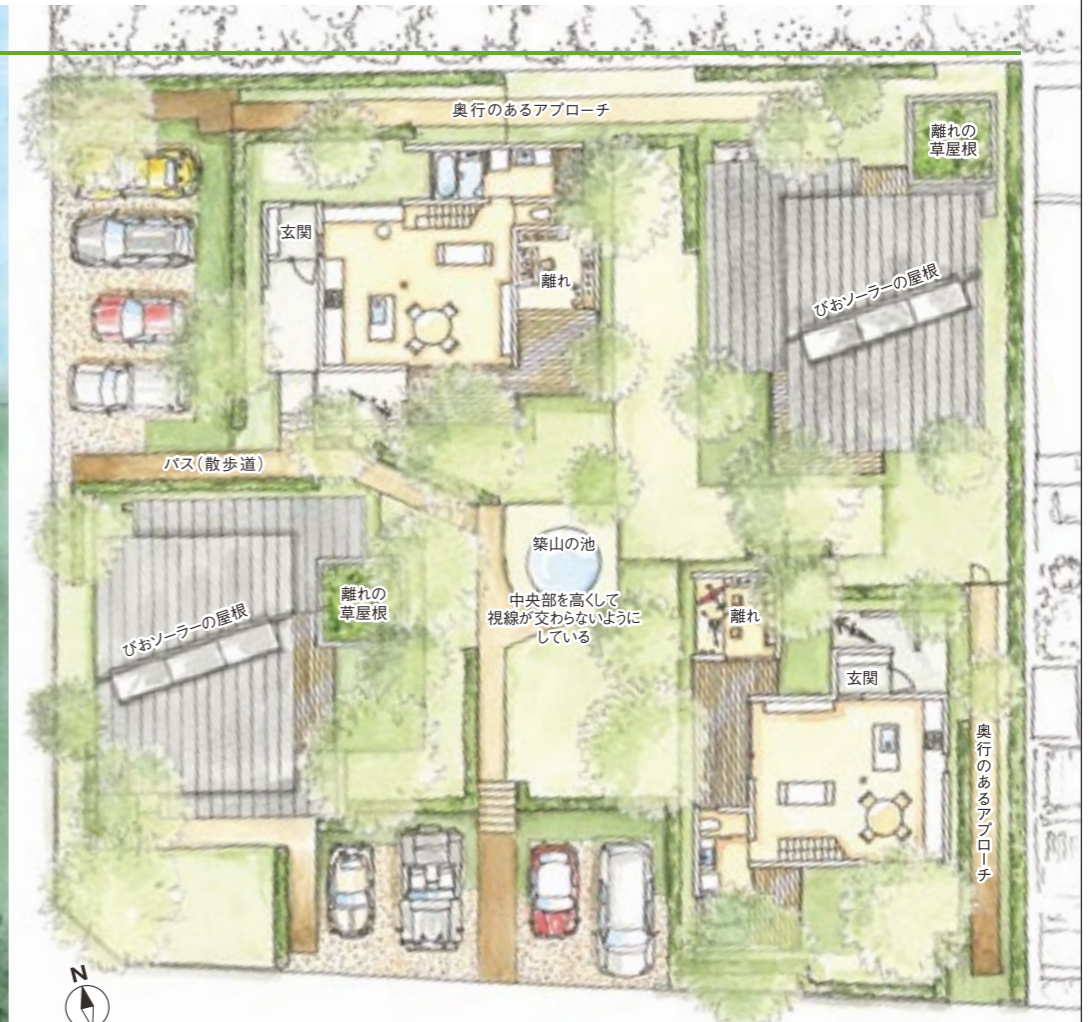


堀部 安嗣 (ほりべ やすし)
堀部安嗣建築設計事務所代表。1967年、神奈川県生まれ。1990年、筑波大学芸術専門学群環境デザインコースを卒業。益子アトリエにて建築家・益子義弘に師事。1994年堀部安嗣建築設計事務所を設立。「牛久のギャラリー」で第18回吉岡賞を、「竹林寺納骨堂」で2016年建築学会賞受賞。京都造形芸術大学大学院教授。著書に「堀部安嗣の建築」TOTO出版、「Architecture 堀部安嗣作品集」平凡社など。



趙 海光 (ちょう うみひこ)
1948年青森県生まれ。法政大学建築学科卒。ぶらんにじゅういち代表。一貫して国産材を使った現代型の木造住宅の設計に力を注ぎ、町家型住宅「現代町家」の設計システムを提唱。著書に「高山建築学校伝説」(鹿島出版会)

里山住宅博 in 神戸 ヴァンガードハウス 設計/堀部安嗣 施工/有限会社デザインビルド 施主/株式会社三ツ輪 堀部さんの新計画は当日発表予定。



里山のある町角 in 蒲郡 設計/趙海光 ランドスケープ/田瀬理夫 施工予定/株式会社イトコー